

精神疾患患者が600万人を超えました 精神医療の現状と抜本的な政策の転換が必要ではないでしょうか

精神保健福祉家族会シュロの会会長 植松和光

東京都八王子市にある精神科病院滝山病院でおきた看護師による虐待、暴行事件報道から一年半になろうとしています。この事件で日本の医療政策について改めて明らかになったことがあります。一つは医療の貧困です。非常勤職員が大部分を占める安上りな医療体制。二つ目はケチケチした医療と過剰治療で儲けることにまい進してきた経営体質。これは、滝山病院だけではなく日本の精神科病院の特徴のような感じがします。もう一つは、法律の問題です。精神科病院は精神保健福祉法、一般病院は医療法により制度化されています。例えば総合病院にある精神科は医療法です。従って病棟がある場合には職員の配置基準が一般病院より精神科病院は低くなっています。

2020年の厚生労働省の統計では精神疾患患者が614万人と2017年の389万人から約225万人も増えています。これは日本の五大疾患でトップの患者数です。

その一方で入院患者数は28万人と2008年の32万人から約4万人減っています。

東京都でも入院患者数は2018年約1万9千人から1万6千人と3千人も減っています。外来患者は増えているが入院患者は減っている、ということです。つまりは、今までの入院中心の医療から地域での医療ケアに舵を取ることが必要と考えます。しかし、地域での医療ケア体制を行っていくためには国が政策転換をしないとできません。

東京だけでも、民間の精神科病院は86病院、1万9,081床(令和5年版道しるべより)あり、政策転換は容易なことではありません。しかし、これは、入院治療に莫大な予算を地域医療と福祉に転換することで予算を減らすことができます。私たちは、精神科医療の当面の改善である、虐待や暴力のない安心して治療のできる精神科病院を求めていくことです。今後は抜本的な政策転換を求めた活動をしていく必要があります。

シュロの会主催 精神保健福祉講演会のご案内

演題	「統合失調症の養生の仕方～脳と心の違いについて～」
日時・場所	8月18日(日) 14時00分～16時00分 くにたち福祉会館 4階大ホール
受付	13時15分受付開始・13時30分開場
参加費用	資料代500円
講師	精神科医 東京都医学総合研究所副所長 糸川昌成氏
申込方法	事前予約・別紙のチラシを御覧ください(残席がある場合のみ当日受付可能)
予約・問合せ	植松☎080-1211-6898 家富☎090-1779-1641

8月・9月 円・シュロの会サロン交流



円・シュロの会サロンの会場は、JR中央線国立駅の高架橋下に位置しております。改札口を出た後、新宿方面へと高架橋沿いをお進みください。午前中は、皆さんで楽しく交流の時間です。8月は会場の都合で、午前の交流会のみ実施します。9月の家族相談を希望される方は、事前にお申し込みください。

8月 円・シュロの会サロン 国立駅すぐです	
日時	8月4日(日) 10:00-12:00 交流 ※会場の都合により、午前開催のみ
場所 国立市	国立駅前くにたち・こくぶんじ市民プラザ JR中央線国立駅東側高架下 国立市市民サービスコーナー併設の会議室 改札口を出た後、新宿方面へと高架沿いをお進みください。北側および南側出入口利用可

9月 円・シュロの会サロン 国立駅すぐです	
日時	9月1日(日) 10:00-12:00 交流 13:30-15:30 家族相談
場所 国立市	国立駅前くにたち・こくぶんじ市民プラザ JR中央線国立駅東側高架下 国立市市民サービスコーナー併設の会議室 改札口を出た後、新宿方面へと高架沿いをお進みください。北側および南側出入口利用可
内容	午後の家族相談は事前予約が必要です 担当：植松 ☎080-1211-6898

9月ミニ交流会のご案内

9月【シュロの会 ミニ交流会】	
日時	9月15日(日) 13:30~16:00
場所	くにたち福祉会館 3階講座室
内容	ミニ交流会では、会報紙の発送作業と皆様の困りごと相談も行っています。お気軽にご参加下さい。

◆令和6年度会費納入のお願い◆

会員・賛助会員の皆様
いつも当会の運営にご協力いただき本当にありがとうございます。今年度も会費の納入をお願いいたします。シュロの会たよりに同封しました振込用紙にて郵便局からのお振込みです。正会員3千円・賛助会員千円～です。これからも皆さまのお役に立てる情報の発信に努めてまいります。引き続きのご支援ご協力をお願い申し上げます。
会計担当

講演会のご案内

講演会	オープンダイアログを体験しよう
講師	精神科医・鍼灸師 森川すいめい先生
日時	8月3日(土) 13:30~16:00
会場	荏原第5地域区民集会所 第一集会室
主催	品川区かもめ会 “要予約”
予約・問合せ	☎090-6190-6186 庄田

講演会	精神疾患に向き合い 家族が心豊かに生きられるように
講師	社会福祉学博士 東洋大学教授 稲沢 公一先生
日時	9月8日(日) 14:00~16:30
会場	小金井市民会館「萌え木ホール」
主催	小金井市あじさい会 申込不要
問合せ	☎042-388-3729

「事件」がおこると...

前提として、事件、事故は全体から見れば多くありません。

【刑事責任】は責任能力があるかどうかで、完全責任能力、限定責任能力(心神耗弱)、責任無能力(心神喪失)があります。心神喪失・耗弱で不起訴/無罪/有罪だが執行猶予のときは、重大な他害行為については医療監察法の対象になります。

【民事責任】は民法709条で本人が責任を負うのが原則です。

しかし、精神上の障害により自己の行為の責任を弁識する能力を欠く状態にある間に他人に損害を加えた者は、その賠償の責任を負わない(民法713条)があります。(民法714条)は責任無能力者がその責任を負わない場合において、その責任無能力者を監督する法定の義務を負う者は、その責任無能力者が第三者に加えた損害を賠償する責任を負う。ただし、監督義務者がその義務を怠らなかったときは、この限りではない、とあります。

【裁判例】

マンションの管理人を突き飛ばして死亡させた裁判例で、責任肯定/否定別かれています。いずれも統合失調症患者の行為に関するものです。

◆福岡高裁令和2年5月27日・・・同居の両親の責任否定

日常的な接触の程度は濃厚だが、本人と高齢の両親に明らかな体力差があった、本人の暴力行為は専ら両親に向けられていて第三者に対するものは長年なかった、本人の散歩に母が原則付き添っていたなどの事情があった例は責任は否定された。

◆大阪高裁令和4年10月25日・・・同居の母の責任肯定

退院の際に病院から訪問看護や精神保健福祉士の関与を何度も提案されたが拒絶して本人を通院させるとして在宅治療を選択したのに、本人の通院拒否について状況を改善しうる立場にありながら放置したとされた例は責任は肯定された。

【家族はどうすればいい?①】

できることをやっておく、そしてその記録を残しておくこと、努力のあとを残しておくことが重要です。

孤立せず、囲い込まないで・・・市区町村の障害福祉課 保健所 病院、訪問看護、デイケア 当事者会、家族会 就労支援...などをつなげる試みを続けること、結果として繋がらなくとも、やろうとした跡を残しておくことです。普段のネットワークの構築が本人のためにも、結果として家族の賠償責任回避のためにも重要です。

【家族はどうすればいい?②】

現状、賠償責任のリスクがあることは否定できません。少ないけれど出来ている民間保険への加入(個人賠償責任保険)もしておくべきなのですが保険料の負担がかかります。認知症では全国で60以上の自治体が公費負担を導入しています。精神障がい者にも公費負担導入は今後あるべきです。(4Pへつづく)

P3つづき【今後のあるべき方向性】

家族に賠償責任を負わせることは、家の中に閉じ込めることにつながり、地域移行の流れに逆行します。資力が十分とは限らない家族に責任を負わせて終わりとするのは、被害者救済にもかけます。

障がい者・高齢者の地域生活を推進するなら、そのコストは社会全体で負うべきで、保険による対応が妥当です。小規模自治体では保険料公費導入が困難です。どこに住んでいるかで決まってしまう不平等があります。国の制度構築が待たれます。 (丸山)

会員の皆様からのコメントをお待ちしております。
コメントは、家族会・ミニ交流会時やホームページのお問合せメールで
お受けしています。300文字以内でお願いします。 (編集部)



今年の夏。姉が、子どもとふたりで田舎から飛行機で東京に遊びに来ることになりました。今春に家族と一緒に来たので、その時に電車の乗り換えなどを教わって、東京駅まで自力で行くためのシミュレーションをしたんだそうです。

先日「東京の電車に乗って、私が観に行くお芝居のチケットを忘れるっていう夢を見たよ、怖い夢だった」と言っていました。きっと不安もあるんだろうなあ。少し心配もありますが、いずれにしても姉と甥が来てくれるのはとても嬉しく、珍道中の旅もきっとよい思い出になるんだろうなあとおもいます (S)

学生時代の友達と4人で佐賀県の嬉野温泉に行ってきました。

京都、大阪、福岡の友達と道中合流するため、東京から新幹線での長旅です。和庭園が臨める素敵なお部屋に美味しい料理。そして露天風呂。手前のお風呂に入り、積もる話に花が咲き・・・何とその奥にある露天風呂に入るのをすっかり忘れて出てきてしまい、何のためにこの宿をとったの?と大笑いになりました。

若き日に毎日毎日一緒に過ごしたかけがえのない友達。中には24年ぶりの友達もいましたが、「昨日も会ったよね」と錯覚するほど盛り上がり、とても楽しいひと時となりました。この思い出を大切に、そして次の再会を楽しみに、日々頑張れそうです。(な)

【編集後記】

先日、新聞の多摩版に、祝くにたち図書館開館50周年とありました。今でこそ図書館に雑誌が置いてあるのは当たり前ですが、当時それは画期的で、私は嬉しくて何度も通ったものでした。

シュロの会の会員のお一人が蔵書の一冊を読んで、著者の精神科医のもとへ病気の子供さんと共に熱心に通院を続けて、ついに寛解に至ったと聞きました。数年前当時者にお会いした時、明快で清々しい表情が眩しく、正直ちょっとだけ羨ましい気持ちがありました。これからも、図書館がより一層市民の生活に役立ち潤いを添えるように、充実するよう願って止みません。(前田)